

校長会報

平成30年度 第3号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町 55
県教育会館内
TEL (0852) 27-8530
FAX (0852) 67-3360



気づく ～修行の思ひ出～

一畑薬師管長 飯塚 大幸

「仏」の字は、インドの原語で「ブツダ」と言います。その意味は「気づく」ことです。「悟る」とか「目覚める」とも訳されますが、要するに気づきです。何に気づくかが問題です。宇宙の真理に生かされている「因縁」に気づく。その気づきと、気づきに至る道を説くのが仏教と言えるでしょう。

入れの向きが間違っていないか。顔を床の間に近づけて色々点検しましたが何も気になるものはありません。困り果てて戻って来た私に対し、師匠は言いました。「わしの活けた花が目に入らなかったか？」

掃除の良し悪しが問題ではなかったのです。掃除をしている私が花を見て気づいたか。無の心に、床の間の美しい花が映ったかを聞いたのです。あえて「見なさい」と言わないで気づくのを待つ。今に想えば、ちよつと意地の悪い本当の親切でした。

「高い所にいるとよく全体が見渡せる。しかし、低い所へ降りて直に接することを忘れるな。わしの前ではいつまでも小僧じゃ」これが師匠のもとを去るときに頂いた言葉でした。言うは易し、行なうは難し。あれから25年、時間だけは経ちました。私自身、なかなか慙愧ざんきに堪えませんが、

とお客さんが向かい合って座っています。大体、人生相談や何やら真剣な話です。長い時間かかることがよくありました。お茶係の小僧は、茶碗を片づけるためにただひたすらその場で待っています。私の放課後は過ぎていきま

す。無言で座っている黒子のような中学生の存在を、お客さんは全く意に介さず、おかまいなしに話し込んでいました。

いよいよ話も終わり、お客さんはすっぱり冷えたお茶を飲むと「あゝ美味しいお茶ですねえ」と仰るご覧になりました。帰りに障子を開けて外を

眺められたことを覚えていません。門まで見送って、その姿が見えなくなるまで深く頭を下げたあと、片付けに戻って来た私に師匠は言いました。「あの人は、来たときもこの庭を見ていたはずじゃ」

心は突っかかりがあるときは、目は開いても何も見えることはありません。心が空っぽになったとたん、お茶が美味しく飲めたり、庭が目飛び込んで美しいと感じるのです。

私たちは、日常の生活での気づきをもちと大切にしたいものです。人の心に気づく。場の空気に気づく。気づく人は、どんなことでも案外よく気づきます。

第六十五回 中国地区小学校長会教育研究大会 島根大会
第六十回 島根県小学校長会研究大会 出雲大会

終わってみれば、みな感謝

大会実行委員長 板垣 靖

(出雲市立長浜小学校長)



出雲市としては、9年ぶりの中国地区小学校長会教育研究大会の会場地をお引き受け

いたしました。出雲市校長会では、平成28年度は準備委員会を、29年度からは実行委員会を組織して準備を進めました。

この3年の間には、本当にたくさんの方々からご支援とご指導をいただきました。そのお一人お一人にお礼を申し上げたく存じますが、紙面の都合上、以下のご紹介にとどめさせていただきます。何卒お許しください。

歴代出雲市校長会の導きに感謝

お引き受けした当時の市校長会では、準備委員会や実行委員会の組織編成の方向性に大きく分けて二つの考え方があったと記憶しています。

一方は、開催年度に現職として大会運営に直接かわる年代の者を中心に組織を立ち上げ、3年を一貫した方針や体制で進めていくとする考え。他

方は、毎年度ごとの出雲市校長会役員が組織の中核となつて、オール出雲で準備を進めながら、年度ごとに体制のバトンタッチをするというものです。結局、当時の幹部の方々が熟慮の末、後者を選択されたわけですが、このことが終始オール出雲で大会準備を一步と進める基盤になりました。また、年度替わりの度に、前年度に積み上げたものを見直して修正を加えることに繋がり、時間は要しましたが、多様な考えや経験を反映した準備を進めることができたと考えています。この3年の間に関わってご尽力いただきました出雲市小学校長会の皆様にお礼を申し上げます。

県校長会の誠意に感謝

実行委員会は、平成29年度から通算で二十三回を数えましたが、そのほとんどの会議に、会長をはじめとする県校長会役員の皆さんに同席していただき、実行委員会とともに協議を進めて

くださいました。このことは、実行委員会にとって重要な支援でした。中国校長会の慣例や理事会での決定事項は勿論、各県の事情などに精通する県校長会役員の皆さんのご協力で能率は飛躍的に上がり、県と実行委員会との意思疎通をしっかりと図ることができました。県の皆様にはご負担をおかけしましたが、その誠意ある対応に感謝し、敬意を表するところですが、塩田さんとの出会いに感謝

平成28年度は、大会の骨格にあたる部分の検討を進めました。講演講師だけは、年度内に具体的な人物にめどを立てることができませんでした。当初、講演講師の人選にあたっては、次のような観点を重視しました。

- ① 内容が大会主題等と合致する方
- ② 出雲・島根と縁がある方
- ③ 会員の多くから支持が得られる方

分野としては、スポーツ界や経済界のリーダーや最先端で活躍する方を望む声が多く、様々な候補者のお名前が挙がりました。そんな中、29年度に入ってから、これまでの歴代講演者とは一味違う方の名前が急浮上してきました。それが、塩田元規さんでした。

まず一番の魅力は、三十五歳(大会当日)という若さ。そして、経済界で注目を集めている斬新な経営理念。さ

らには、私たち校長の年代が思いもしないような切り口を示してくれるのではないかと期待感がありました。当日の講演は、多くの方から高い評価をいただきました。お忙しい中、直前まで準備に多くの時間を割いてくださったご本人はもちろんですが、元規さんを世に送り出してくださったご両親に改めて感謝を申し上げます。おわりに

大会の中核をなす午後の分科会に対しても、県内外の参加者から高い評価をいただきました。発表をご準備いただいた方々は勿論ですが、運営や司会・記録などたくさんの方々に力をお貸しいただいたお陰と感謝しております。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

第六十五回 中国地区小学校長会教育研究大会(島根大会)に参加して

丹羽 隆

(安来市立島田小学校)



平成三十年十一月九日(金)、島根県出雲市において標記の大会が開催されました。大

嬉しいの値打ち

門脇 巧

(飯南町立頓原小学校)



これだけ知っていますか(やなせたかしさんの写真を見せる)。子どもたちの反応「えーだれ」「どこのおじいさん?」「わからない」

じゃあこれならどう?(アンパンマンのぬいぐるみと写るやなせたかしさんの写真を見せる)「アンパンマンを描いた人」「やなせたかしさん」と数人の子どもが反応する。

そう、この人はやなせたかしさん、アンパンマンを描いた人です。アンパンマンはみんな知ってるよね。やなせたかしさんは九十四歳で亡くなられたんですが、亡くなられる前まで、ずっとアンパンマンを描いておられたそうです。

あるとき「どうして、ずっと描き続けるのですか」と訊かれたやなせたかしさんは「みんなが喜んでくれることが嬉しいから、自分がアンパンマンを描くことでたくさんの方が喜んでくれ

る、そのことが嬉しいから描き続けるのです」と答えられたそうです。みんなが喜んでくれることが嬉しい、そんな嬉しいという気持ちが、ずっと描き続ける力になっていったのです。

みんなは、いろいろなときに嬉しい気持ちになるよね。ほしかったものを買ってもらって嬉しい、がんばって練習して九九が言えるようになった、逆上がりができるようになって嬉しい、こうした「嬉しい」はすてきだよ。でも、私はやなせたかしさんが言っている「自分がしたことで誰かが喜んでくれる、そのことが嬉しい」という「嬉しい」が、よりレベルの高い、値打ちのある嬉しいではないかなと思います。そして、この嬉しいというのは、みなさんの生活の中につこうあると思います。お家でお手伝いをして家族から「ありがとう」と言われたとき、友達に教えてあげること、友達ができるようになったとき、困っている友達の相談のつて友達が笑顔になったときなど、たくさんあると思います。でも、私は欲張りなので、そんな「嬉しい」がもっともっと増えるといいなと思います。そうすれば、もっともっとみんなが笑顔になって仲良しになれると思います。学校で、お家で、地域で「まわりの方が喜んでくれることが嬉しい」をどんどん増やしていってほしいと思います。

「教科書を信じるな」とは

岡崎 博文

(大田市立池田小学校)



皆さん、ドラえもんは知っていますか。『どこでもドア』や『タケコプター』くらいなら私も知っています。また、試験の時には、食べた覚えられる『暗記パン』が本当にあったらいいのになあ、と思ったものです。

残念ながら、まだそんな道具はできていません。しかし、私が子どもの頃には想像もつかなかったものが、今はたくさん世の中に出回っています。私が先生になりたての時、周りで見たこともなかった携帯電話は、今ではすっかりスマートフォンにとって代わられています。ただ、そのおかげで、どこにいても、世界中のいろんな情報がすぐ手に入るようになりました。テレビは「8K」となり、それを見るとまるでその場にいるような気になります。危険を察知して止まる装置がたくさんある車につけられ、自動運転の車が道路を走る日ももうすぐだそうです。こんな話を聞くと、ドラえもんの道具と同じような気がするのは私だけでしょうか。

か。

話は変わりますが、本庶佑さんという人を知っていますか。この前、ノーベル生理学・医学賞を受賞された方です。その人が記者会見で「人が言っていることや教科書に書いてあることを全て信じてはいけません」と話しておられるのを聞いて、私は(いったい、この人は何を伝えたいのだろう)と思いました。

ノーベル賞を受賞されたような人が、「教科書を信じるな」と言われるなんて、意外な気がしませんか?(えーっ、何でそんなこと言うんだろ?)と思った人も、皆さんの中にもいないでしょうか。

教科書を疑うことなど、普通はしません。でも、私はこのことを聞いて(面白いことを言うなあ)と思いました。教科書だから間違いはないと思うのでなく、教科書に書いてあることが本当かどうか、まず自分で考えることが、こそが大事である、と言われていた気がしたからです。また、それが新しいことを生み出すための始まりであるとも思いました。

皆さんも、本庶さんと同じように、まず自分で考えることから始めてみましょう。それが、もしかすると『どこでもドア』や『暗記パン』を生み出すことになるかもしれません。

会主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」―未来に向け 地域とともに 主体的・協働的に新たな価値を創造する子どもたちのために育てる学校経営の推進―のもと、記念講演や十三の分科会が行われました。「ご縁の国 出雲」に中国地区五県から、約六百名の会員が参加しました。

金山美幸大会会長からは、昨年三月に告示された新学習指導要領の趣旨を踏まえてのご挨拶がありました。「将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちに、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決を図り、新しい知・価値を創造する力を育まねばならない。そのためには、私たち校長が明確な展望を持ち、強いリーダーシップを発揮することで、確かな成果を上げていかなければならぬ」とのお話があり、背筋が伸びる思いでした。

記念講演では、株式会社アカツキ 共同創業者 代表取締役CEO 塩田元規氏の講演を拝聴しました。いわゆる「ベンチャー企業」のトップとして、果敢に新しい事にチャレンジし、成果を上げつつ社員を「人財」として大切にしておられる経営姿勢は、大いに参考になりました。とりわけ、常に

「なぜ」と問い続ける経営方針から、学校経営を改善する重要な視点をいただくことができました。

分科会は第十二分科会「自立と共生」と第十三分科会「連携・接続」に参加しました。「自立と共生」では、広島県呉市の実践発表を聴きました。「自立と共生に向けた特別支援教育の推進」に向けて「教育のユニバーサルデザイン」を目指し、単独校ではなく

市全体としてベクトルを合わせ、取り組まれている点が印象的でした。「連携・接続」では、松江市の実践を聴きました。「保幼小の円滑な連携・接続」を目指して「園所訪問・連携シート作成・スタートカリキュラムの改善・連絡協議会」等の具体的な取組を、校長がリーダーシップを発揮して行われている点がとても参考になりました。

どちらの協議会でも、研究の柱を中心に協議しました。また、話し合いの中で各県や市の実情や課題について情報交換できたことは有意義でした。

「ご縁の国 出雲」で集い、協議できた「縁」を県内の先生方とはもちろん中国各県の先生方と結び、今後の学校運営に生かしていきたいと意を強くする一日となりました。

大会運営に携わられた出雲市及び近隣地区の校長先生方にはお世話になりました。ありがとうございました。

第七十回 全国連合小学校長会 研究協議会北海道大会に参加して

板倉 宏

(邑南町立市木小学校)



平成三十年十月四日・五日、大会主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く推進」の究明に向けて、表記大会が開催されました。

文部科学省初等中等教育局教育課程課長 望月 禎氏から、学びの在り方の変革、働き方改革の推進の講話がありました。児童に求められる力の育成に向け、組織としてPDCAサイクルを確立する必要性が確認されました。

十三の分科会では、カリキュラム・マネジメントの視点から校長の在り方について協議が行われました。そのうち、第五分科会「豊かな人間性」では、島根県川本小学校高尾康弘校長先生より「人権教育の推進を通して豊かな人間性を育むための校長の役割」の視点から発表がありました。「島根がめざす人権教育の再認識を図る」「学習指導要領とカリキュラム・マネジメントの理解を深める」「校長自身の人

権感覚の育成を図る」を柱に、邑智郡小学校長会として協働的研修を行い、各校の取組へとつなげた実践でした。私は、教育活動を人権教育の三つの視点から価値付け、児童・家庭・地域に伝える取組を進めたいと思いました。他県校長から、次のような発言がありました。

○島根県の人権教育の理念が、学校の取組へと筋が通っていて受け止めやすかった。

○「みんなが大切にされている学校」をめざし、差別解消、多様性、合意形成などを重視していきたい。

二日目は「ふるさと・挑戦・未来創造」のテーマで、北海道ゆかりの三氏によるシンポジウムが行われました。先生がよさに気付かせてくれたから今の自分があるとスキージャンパーの葛西紀明氏、好奇心の芽が挑戦への基になると北海道テレビ放送の佐藤麻美氏、学校は子どもの生き方のデザイン教室だと北海道PTA連合会の青田基氏。自身の人生と重ねての語りから、学校は子どもの資質・能力を伸ばす大きな役割をもち、未来への意欲を育む場であると感得できました。学校の存在意義と自身の役割を学んだ実り多き二日間でした。



分科会で発表する 高尾康弘校長 (川本小)

理事会部会報告

総務部

総務部では、島根県教育委員会との意見交換会の計画、HP運営委員会の立ち上げ、及び二〇二二年全連小島根大会への見通しを中心に協議を行いました。

○県教委との意見交換会について

各市郡理事へのアンケート調査結果を基に、「教職員を取り巻く現状について(長時間勤務・メンタルヘルス・働き方改革)」と「新教育課程への取組について」の二つの話題について意見交換を行いました。石橋義正常任理事(大田・長久小)と安部清志常任理事(安来・安田小)のお二人には、貴重な情報提供をいただきました。

○HP運営委員会の発足について

米田幹事を委員長としてHP運営委員会を立ち上げました。その中で更新の原則や更新スケジュールが作成されました。

○二〇二二年全連小島根大会について

大会期日を二〇二二年十月十三日(十四日と予定し、大会参加者を二千五百人程度として、メイン会場や分科会会場を割り振る作業を行いました。今後、松江市小学校長会とも協議しながら計画立案を進めていきます。

(総務部 奥村忠孝)

対策部

対策部では、今年度、主として以下の対策活動を行いました。

○「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」と呼称した取組

「全連小対策連絡協議会(三地区大会)」「中国地区連絡協議会(中国地区小学校長会理事會)」への参加

○全連小によるアンケート調査への回答

今年度も、「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」は、子供たちの教育環境・条件をより良いものとするために、また、子供たちの教育を支える教職員の勤務条件等の改善を図っていくために、県教育委員会や県人事委員会等に要望活動を行いました。県の様々な施策や予算措置に感謝しながらも、学校現場の厳しい実態について理解いただくよう努めました。また、教職員の働き方改革や教員の確保についても話題にしました。

市町村、校種、そして学校規模等の実態のバランスを考慮した、全県的な視野に立つ要望内容でありました。

○対策部では、全国校長会や市町村校長会との連動性及び、国や県の動向を踏まえながら、今後も島根の教育の一層の充実を図る要望活動が進められるよう、「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」の方向性等について検討を重ねていきたいと考えています。

(対策部委員長 福島 浩)

調査研究部

今年度は、以下のような確認・報告・協議を行いました。

第一回(六月二十一日)

- ・今年度の調査研究活動・全連小調査協力依頼について
- ・県小学校長会の研修会開催に関する申し合わせ事項等の確認
- ・第六十五回中国地区小学校長会教育研究大会(島根大会)の説明
- ・第六十一回島根県小学校長会教育研究大会(邑智大会)の説明

第二回(八月二十一日)

- ・県小学校長会の研修会開催に関する申し合わせ事項等についての協議
- ・第六十五回中国地区小学校長会教育研究大会(島根大会)の進捗状況
- ・第六十一回島根県小学校長会教育研究大会(邑智大会)の協議
- ・第六十二回島根県小学校長会教育研究大会(安来大会)の説明

第三回(二月二十二日)

- ・全連小アンケート調査集約状況報告
- ・研究大会(島根大会)の振り返り
- ・県小学校長会の研修会開催に関する申し合わせ事項等についての協議
- ・第六十一回島根県小学校長会教育研究大会(邑智大会)の準備状況説明
- ・今年度の活動の反省と来年度の見通しについて協議

(調査研究部委員長 須田英典)

広報部

今年度は、主として次のような広報活動を行いました。

○「校長会報」

編集方針を立て、会員の声を生かしながら、年三回発行しました。
・本会の活動の状況を掲載し、資料性・記録性を大切に編纂とする。
・全連小の動きや県教育長の言葉、教育課題に対する意見のコーナーを設け、会員の研修・共通理解の場とする。
・役員紹介、新校長随想、学校紹介、コラム等の欄を設け、会員相互の親睦と研修に資するようにする。
今後読みやすい編集を心がけます。

○「校長樹林」

今年度は、隠岐支部に編集の担当をお願いし、二月発刊となりました。
六月に編集方針が示され、それに基づいて着々と原稿依頼や校正が行われました。十二月には臨時広報部会を開催し、広報部会として校正作業を行いました。皆さんのお手元に届けるに至りました。

○諸活動(全連小関係を含む)

「小学校時報」の原稿依頼に対して、会員の方々に快く応じていただき、島根の教育の一端を発表することができました。

この一年、ご協力いただいた多くの皆さんに、心より感謝いたします。

(広報部委員長 大谷正利)

事務局だより

事務局長 奥村 忠孝

(松江市立内中原小学校)

一 第六十五回 中国地区小学校長会
教育研究大会島根大会

第六十回 島根県小学校長会

研究大会出雲大会

十一月九日(金)、出雲市の出雲市民会館を主会場に四会場で、中国五県から約六百名の会員が参加して開催されました。

開会式・全体会では、金山美幸島根県小学校長会長から「本大会の一つ一つが、子どもたちの健やかな成長をさらに進めるための確かな礎になる」との挨拶がありました。続いて新田英夫県教委教育長(代理高橋泰幸同教育監)、榎野信幸出雲市教委教育長、種村明頼全連小会長からご祝辞をいただきました。続いて、大会実行委員会鎌田研究部長から大会主題及び副主題の趣旨説明が行われました。

続く記念講演では、出雲市出身で株式会社アカツキ代表取締役CEO 塩田元規氏から「経営を通じて学んだ、人生にとって大切なこと」と題したご講演をいただきました。夢とビジョン

を仲間と共有し、それに向かって共に成長していくことの大切さや、人と人とのつながりや人をワクワクさせることを大切に、世界を幸せにしたいとの思いを語られ、学校教育・学校経営への貴重な示唆をいただきました。午後の分科会は、五領域十三分科会が開催されました。島根県からは、次の校長先生方から提案がありました。

安来市立比田小学校曾田淳史校長先生
雲南市立大東小学校村尾隆晃校長先生
大田市立久手小学校矢田悦夫校長先生
川本町立川本小学校高尾康弘校長先生
吉賀町立蔵木小学校松本善生校長先生
江津市立桜江小学校木村孝校長先生
海士町立福井小学校吉田貴弘校長先生
浜田市立旭小学校三浦秀人校長先生
益田市立西益田小学校渋谷秀文校長先生
松江市立母衣小学校中村次郎校長先生

最後に、板垣靖大会実行委員長の「『未来に向けて』学校が果たすべき役割はどのようなものであるのか、『未来を生きる』子どもたちが備えておくべき能力は何なのかを、ともに問い続けていきたい」との挨拶を各会場責任者が代読して会が閉じられました。

出雲市校長会の皆様には、三年にわたり準備を進めていただき、大変有意義な研究大会を開催していただきまし

たこと、心よりお礼申しあげます。
二 第七十回 全国連合小学校長会
研究協議会北海道大会

十月四日(木)・五日(金)、函館市において開催され、全国から約二千五百名、本県からは二十九名が参加し、第五分科会「豊かな人間性」において川本町立川本小学校の高尾康弘校長先生に発表していただきました。

初日の全体会における文部科学省講話では、第三期教育振興計画の概要をもとにソサエティー5.0における学びの在り方について説明がありました。他には、「新たな学習指導要領の円滑な実施について」「デジタル教科書について」「学校における働き方改革について」などの話がありました。なお、全連小第二百三十回理事會には、金山美幸会長と須田英典副会長が、本県を代表して出席しました。

三 第四回理事會(お知らせ)

平成三十一年二月二十二日(金)、松江テルサにおいて開催します。今年度の活動の反省と次年度の活動計画等を検討します。

四 平成三十一年度

第一回理事評議員会(お知らせ)

平成三十一年四月二十五日(木)、サンラポーむらくもにて、新年度の組織、事業計画等について協議します。

平成30年度 会務報告

4	3	監査会
12	12	事務局会①
20	20	事務局会②
27	27	第一回理事評議員会
30	30	事務局会③
21	21	第二回理事會
4	4	事務局会④
24	24	第一回常任理事會
27	27	中国地区理事會(松江)
21	21	第三回理事會
22	22	県教委との意見交換会
4	4	全連小北海道大会(5)
30	30	事務局会⑤
8	8	中国地区理事會(出雲)
9	9	第六十五回中国地区小学校長会教育研究大会(島根)・第六十回島根県小学校長会研究大会(出雲)
14	14	広報部会
11	11	事務局会⑥
8	8	中国地区理事會(松江)
22	22	第四回理事會

編集後記

訂正 会報第2号当欄の記載に誤りがありました。小泉凡氏の所属名は島根県立大学短期大学部です。訂正しお詫び申しあげます。

お礼 今年度、県小学校長会や全連小関連で執筆等にご協力いただきました皆様にご心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。(畠山)